

教育委員会名	世田谷区教育委員会
--------	-----------

I 概要

1 選択したテーマ

テーマ	取組項目	選択
①人工呼吸器の管理等の高度な医療的ケアが必要な児童生徒等を学校で受け入れるための校内支援体制に関する研究	(ア) 高度な医療的ケアが必要な児童生徒等を学校で受け入れるに当たり、原則、保護者が医療的ケアを実施しないかつ学校における待機が不要な医療的ケア実施体制を構築するための研究	○
	(イ) 高度な医療的ケアが必要な児童生徒等を学校で受け入れるに当たり、保護者と看護師・教員等との役割を明確に分担し、保護者の負担軽減を図るための医療的ケア実施体制を構築するための研究	
	(ウ) 高度な医療的ケアが必要な児童生徒等を学校で受け入れるに当たり、保護者から学校で医療的ケアを実施する看護師・教員等への引継ぎを短期間で安全に行える医療的ケア実施体制を構築するための研究	
	(エ) 訪問教育を受けている児童生徒が通学籍として学校に安全・安心に通学可能となることを目的として医療的ケア実施体制を構築するための研究	
②人工呼吸器の管理等の高度な医療的ケアを含めた学校における医療的ケア実施に対応するための医療的ケア実施マニュアル等策定に関する研究	(ア) 人工呼吸器等の高度な医療的ケアを含め、教育委員会と所管する学校が連携して安心・安全に医療的ケアを実施するための医療的ケア実施マニュアル等を策定するための研究	○
	(イ) 人工呼吸器等の高度な医療的ケアを含め、教育委員会と所管する学校が連携して安心・安全に医療的ケアを実施するために、医療的ケアを実施する教員・看護師の役割分担及び協力体制等を考慮した研修テキスト等を策定するための研究	
③地域や学校の施設・設備等の状況を踏まえた医療的ケア連携体制に関する研究	(ア) 医療的ケアを実施する体制が十分に整備されていない学校を指定し、学校における医療的ケア実施体制を構築するための医療的ケア連携体制に関する研究	
	(イ) 地域や学校の施設・設備等の状況を踏まえ、医療的ケアを実施する体制が十分に整備されていない教育委員会・学校が医療的ケアの実施体制が整備されている教育委員会等と連携し医療的ケア実施体制を構築するための連携体制に関する研究	

2 研究の概要

平成30年3月の厚生労働省通知により、緊急時における看護師による気管カニューレの再挿入は保健師助産師看護師法違反に問われないとされているが、カニューレの再挿入経験がない又は少ない看護師の場合は、緊急時に気管カニューレの再挿入が必要となっても適切な対応ができない場合がある。

また、看護師不在時かつ保護者が自宅待機時に気管カニューレが事故抜去した場合に、対象児童の安全を確保するために、また、保護者の負担を軽減するためにも、緊急時に迅速に対応できる校内体制の構築が求められている。研究で得られる気管カニューレ事故抜去等の緊急時における体制構築を進めることにより、医療的ケア児の迅速かつ安全安心な区立小中学校への受入れを目指す。

- ①気管カニューレ事故抜去等の緊急時における看護師の気管カニューレ再挿入について、指導医と連携し、手技等を獲得できるような研修の実施に向け検討する。また、看護師不在時の学校における緊急時の対応力を向上させるため、気管切開者への対応を含めた救急救命講習会の開催等について検討する。
- ②気管カニューレ事故抜去等に関する検討、研究を通じて作成した緊急時対応マニュアル及び緊急時対応フォーメーションを校内や地域の関係機関へ周知していく。

3 研究の内容等

(背景・課題意識・提案理由)

平成30年3月の厚生労働省医政局看護課長通知により、緊急時における看護師による気管カニューレの再挿入は保健師助産師看護師法違反に問われないとされているが、カニューレの再挿入経験がない又は少ない看護師の場合は、気管カニューレの事故抜去時等の緊急時に再挿入が必要となっても適切な対応ができない場合がある。

また、世田谷区の場合、看護師の配置は週3日程度であり、週の中で看護師が不在の状態が発生する。この場合は、医療的ケアは保護者をお願いし、保護者には子の状態に応じて校内待機又は自宅待機をしてもらっている。看護師不在時かつ保護者が自宅待機時に気管カニューレが事故抜去した場合に、対象児童の安全を確保するために、また、保護者の負担を軽減するためにも、緊急時に迅速に対応できる校内体制を構築する必要がある。

(モデル校の選定理由)

モデル校には、いずれも気管カニューレを装着し、気管カニューレ内の喀痰吸引が必要な児童が在籍しており、医療的ケア実施のための看護師を配置し、保護者による医療的ケアの実施や付添をなるべく少なくするような取組みを進めている。

医療的ケア児の状態はそれぞれ異なるが、医療的ケア児が安全安心に学校生活を過ごすことができ、保護者の負担軽減を図って行くためにも、気管カニューレの事故抜去時の対応を含めた学校での医療的ケア実施体制の検討を進めていく必要があることから、モデル校とした。

(事業の目標)

学校生活での気管カニューレ事故抜去等の緊急時対応マニュアル作成や緊急時の体制構築を通じて、保護者と看護師・教員等との役割を明確に分担し、保護者の負担軽減を図るための医療的ケア実施体制を構築する。事業の成果については世田谷区医療的ケア連絡協議会で報告するとともに、気管カニューレを使用している医療的ケア児(者)を受け入れている保

育園、通所施設等への周知を図る。

(研究仮説)

気管カニューレ事故抜去等の緊急時における気管カニューレの再挿入を、臨時応急の手当として看護師が実施できるようにするため、指導医と連携し、手技等を獲得できるような研修の実施に向け検討する。また、看護師不在時の学校における緊急時の対応力を向上させるため、気管切開者への対応を含めた救急救命講習会の開催について検討する。実施できない場合は代替的な講習会の実施に向けて検討を行う。

本研究で得られる気管カニューレ事故抜去等の緊急時における体制構築を進めることにより、医療的ケア児の迅速かつ安全安心な区立小中学校への受入れを目指す。

(取組内容)

◆教育委員会としての取組（事故抜去時の対応は、モデル校各校の共通課題であるため以下の取組を各校ごとに実施する。）

看護師のスキルアップを図るため、指導医からの意見聴取、講義、対象児童のカニューレ交換場面の見学、シミュレーター等を用いた実技研修のコーディネートをする。

学校での医療的ケアに関する知識向上のため、教職員を対象とした対象児童の疾患、気管カニューレに関する説明会や救急救命講習会等のコーディネートをする。

◆モデル校における取組

日々の医療的ケアの実施を通して、緊急時対応の検証や新たな課題等を把握する。

(評価の観点及び評価の方法)

- ・指導医と連携した看護師向け研修やカンファレンス等の実施内容
- ・教職員を対象とした対象児童の疾患、気管カニューレの説明会や救急救命講習会等の実施内容
- ・緊急時対応マニュアル、緊急時対応フォーメーションの作成

上記の観点を用いて評価を行うとともに、「世田谷区医療的ケア連絡協議会」において成果を報告し、委員より指導・助言をいただく。

4 事業を通じて得られた主な成果

気管カニューレ事故抜去等の緊急時における看護師の気管カニューレ再挿入について、指導医と連携し、手技等の獲得を目的とした研修の実施に向けた検討を行った結果、次の内容により研修・講習会を実施することができた。

- ①対象児童の気管カニューレの定期交換場面の見学
- ②指導医から気管カニューレの挿入方法等の説明や助言
- ③小児医療的ケアモデル（シミュレーター）を使用した看護師本人による気管カニューレの挿入及び指導医から指導、助言
- ④指導医及び看護師からの意見聴取
- ⑤保護者立会いのもと、指導医の指導・助言に基づき、看護師本人が気管カニューレの定期交換を実施

- ⑥看護師及び保護者不在時を想定した教員研修（対象児童の病態の理解、パルスオキシメーター及びマスク型アンビューバッグの使用方法等）の実施
研修は、対象児童ごとに以下の日程で複数回に分けて実施した。

第1回：令和元年6月24日（指導医在籍の医療機関で実施）

第2回：令和元年10月21日（対象児の在籍学級で実施）

第3回：令和元年11月11日（区の教育センターで実施）

第4回：令和2年3月30日（対象児の在籍学級で実施）

学校において医療的ケアを安全安心かつ継続的に実施してくために課題となっていた「気管カニューレの事故抜去」時の対応について、指導医による手技指導を含めた指導助言が得られることにより、医療的ケア実施体制を強化することができた。

また、医療的ケアを実施する看護師が必要時に医療職としての指導助言を得られる環境を整えることにより、医療的ケアを実施する看護師の負担感を軽減することができた。

本事業の取組によって、安全・安心に医療的ケアを実施するための体制を強化することができた。

5 課題と今後の方策

気管カニューレ事故抜去時の対応方法に関する研究を行った意義は大きいと考えているが、本研究で実施した研修回数では、十分な対応や手技等の習得に至ったとは言い難い面がある。指導医、教職員ともに多忙な状況があるため、研修機会の確保が課題ではあるが、学校現場の教職員が緊急時対応マニュアル等に基づき、迅速かつ正確な対応を行うことができるよう、今後も継続的に研修を実施し、対応能力の向上に向け取り組んでいく。

また、気管カニューレを挿入している医療的ケア児の病態は多様であるため、今回のモデルケースで作成した緊急時対応マニュアル等を基本としながら、一人ひとり丁寧に作成していく必要がある。